PREX NOW

PREX
Pacific Resource Exchange Center

途上国と関西をつなぐ　VOL.245

特集：帰国研修員と訪問先企業

ニッポンのみなさん、たいへんお世話になりました！

私たちの訪問を受け入れていただいた日本企業の皆さん
お元気ですか？
日本で学んだことを母国で活かしています。

＜ウズベキスタンの帰国研修員の皆さん（ウズベキスタン日本センターにて）＞

帰ってからは、

2015年度ウズベキスタン・キルギス
現地講師育成研修参加
ユリア・バフマチさん（写真中央）

ウズベキスタン帰国研修員の声

帰国してから、
研修の影響の大きさを再認識できました。

日本にはトヨタやパナソニックなど大企業の印象が強いですが、実際に日本へ行ってみると、中小企業が全企業の99.7%を占めるということに驚きました。ウズベキスタンにとっては日本の中小企業の経営が参考になることが多いと思います。日本では様々なテーマに関して企業を訪問しましたが、とりわけ「人材育成」の考え方に感銘を受けました。私も、経営者ですので、人材育成を大切にする会社にしたいと考えるようになりました。日本で訪問した企業の中で、特に印象に残っているのは伍魚福（珍味の製造・卸）、久米繊維工業（国産Tシャツの製造・販売）、ガッツ（革小物製造・販売）の3社です。伍魚福ではPDCAを上手くまわすことの重要性について学びました。これは今でも非常に役に立っています。久米繊維工業では大ヒット商品を作ること、製品と人材を育成することが企業の成長に繋がるというお話を聞きました。当社も、育てた人材が辞めてしまうこともありましたが、商品も人も育てて、持続性のある企業にしたいと思います。ガッツでは従業員とお客様の関係性が売り上げに大きな影響を持つということを教えてもらいました。これらの企業から学んだことを自社で取り入れることは、負担ではなく、むしろ喜びです。研修の成果は、帰国後にこそ見えてくるのだと思います。私も良い成果をだせるよう、自社の成長のために邁進していきます！
（ユリア・バフマチさん、コンサルティング会社　社長）

活動発表をするユリアさん

ウズベキスタンの帰国研修員の皆さん

実践あるのみ。

2016年度中央アジア
ビジネス実務研修（B）参加
カディル・バイマトフさん

キルギス帰国研修員の声

カフェの経営悪化の理由は、研修に参加してはじめて分かりました。

2014年1月からキルギスで健康志向のメニューを売りにしたカフェを経営しています。キルギス日本センター（KRJC）のMBAコースで日本の経営について学び、2016年度、訪日研修に参加しました。

研修で、「現場」を見ることが一番楽しみでした。KRJCの講義で懐疑的な部分もあったのですが、実際に現場を見て経営者の話を直接聞いて、納得することがたくさんありました。

実はカフェの2店舗目は赤字が続き失敗してしまいました。しかし、研修で色々な企業で話を聞くことで、なぜ失敗してしまったのか、その理由が分かりました。企業訪問で得た知識を活用して具体的な対応策を考え、次の店舗では実践してみる予定です。

私の会社の業種は飲食サービス業ですが、研修では製造業やホテル業などの企業を訪問しました。異業種でしたが、3Sや従業員育成といった視点はすべての業種に通ずるものだと思います。各企業の良い点を取り入れ、帰国後は倉庫管理の改善や従業員とのコミュニケーション、財務管理の徹底などを実践しました。

今は、従業員の給与体系の見直しや在庫管理のカイゼンを進めています。それがキルギスでのカイゼン導入成功例になって、KRJCや日本から見学に来てもらえるようになったら嬉しいです。

（カディル・バイマトフさん、カフェ経営者）

カディル・バイマトフさんがキルギスで経営しているカフェの店内

従業員が仕事中に携帯をさわらないように置き場を作成した。

日本での企業見学を参考に食材置き場を改善した。

国際交流

フォローアップセミナーでさらに経営改善のヒントをもらいました。

カイゼンの導入が自社の発展と競合他社との差別化に繋がると信じています。2015年度に研修に参加してから、自分自身がリーダーとなってカイゼンを社内に浸透させようと奮闘しています。ただ、他の従業員との温度差を感じることもしばしば。カイゼンだけでなく、従業員満足と顧客満足の両立などの問題も解決していかなければなりません。今村先生がおっしゃる、「信頼関係の構築」はまさに我々が直面している課題です。日本で学んだことを思い出しながら、また今回のようなフォローアップセミナーでさらに知識をつけながら、引き続き経営改善を進めていきたいと思います。

■プロフィール：ボロット・ターライベック氏　キルギスの中堅銀行であるバカイ銀行　副頭取。 2015年度の日本センター講師研修に参加。

談　議。

誤解しないでほしい。カイゼンは「日本だから」できるのではないですよ。

「カイゼンは日本人だからできる」と研修員の皆さんによく言われます。しかし、日本とキルギスやウズベキスタンとの間で、大きな違いはないと感じています。違いがあるとすれば、日本ではカイゼンそのもののテクニックに加えて、従業員を上手く巻き込むテクニックがあることではないでしょうか。その両方を組み合わせてカイゼンを推進することが、成功の秘訣です。また、カイゼンの推進には、自発性を尊重し、任せきることが不可欠です。任せることで信頼関係が生まれ、やろうという気持ちになります。そのためには「任せきろう」という社長の決意や意志が非常に重要です。訪日研修では、手法的な部分だけでなくカイゼンに対する考え方も学び、自社や自国に適した形にアレンジしてほしいですね。

■プロフィール：今村 敦剛氏（株）クリエイションの主任コンサルタント。中央アジア対象の研修において研修コースリーダーや講師を担当。
今回のウズベキスタン、キルギスのフォローアップには、講師として出張。

訪問企業の声①株式会社伍魚福

研修員の受け入れは海外に日本ファンを作る活動です。

2006年から、毎年ウズベキスタンやキルギス、ベトナムの研修員に訪問いただき、経営理念やマーケティング、商品開発の話をしています。海外からの研修員の受け入れは、国際社会の中で日本ファンをつくる活動だと考え、当社では、「経営における社会的責任」の一つと位置付けています。研修員からの質問には、毎回ハッとするのですが、2009年の研修員が「帰りに空港で伍魚福の珍味を買いたいが、どれが伍魚福の製品か、見分けられない。ロゴマークをいれてほしい」と言われたことをよく覚えています。外国の方にもご利用いただける可能性を感じるコメントでした。訪問してくれた研修員に関西空港や、成田空港でうちの製品を見つけてほしい！と思い、製品にロゴマークを入れるようにしました。当時は、海外での販売は、頭にありませんでしたが、ここ数年は海外での展示会にも参加しています。研修員の国の経営も見てみたいですね。

株式会社伍魚福　代表取締役社長　山中　勧 氏（神戸市長田区：味を創造する高級珍味の製造卸）

訪問企業の声②
パナソニック株式会社
アプライアンス社

「共存共栄」の精神で、カイゼンの仕組みを世界共通に。

日本経済新聞で、日本企業のカイゼンが新興国の手本になっているというPREXの記事をみて、我々のカイゼンの現場にも刺激をもらえるのではないかと思い、研修の受け入れを希望したのが2015年のことです。研修員の皆さんはガツガツ学ぶという印象ではなかったのですが、帰国後、当社の活動を参考にされている方もあると聞き、嬉しいです。日本のものづくりの現場は行き詰っていますが、国内にものづくりの現場を残すことは、品質基盤と技術力を維持する上で重要です。そのためにも、お金をかけずに従業員がカイゼンのアイディアを出し合って、よりよいものづくりの現場を作ることは欠かせません。お金をかけないカイゼンなら、海外の工場でも取り組めます。地球の裏側から日本とは異なる文化を持つ皆さんに訪問してもらい、ものづくりの現場にイノベーションのチャンスを作りたいです。

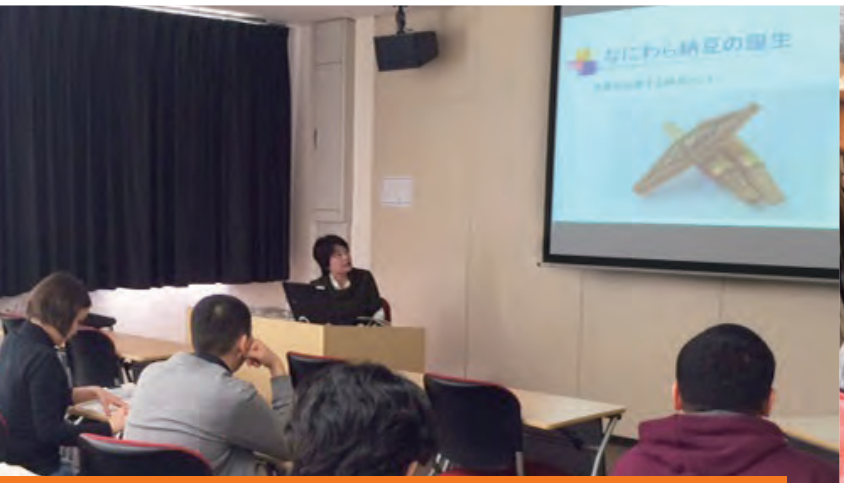
パナソニック株式会社アプライアンス社　草津工場長　遠矢　大 氏（滋賀県草津市、キッチンアプライアンス事業部）

訪問企業の声③白鶴酒造株式会社

日本酒をアジア、そして世界中に広げたい！

2005年に依頼を受けて、ベトナムやウズベキスタンの研修員の訪問を受け入れ、マーケティングや商品開発についてお話しています。日本酒について知らない研修員もあり、基礎知識に加えてマーケティングの説明もするのですが、その配分が難しいと感じます。日本の流通のしくみも複雑ですので、研修員がどの程度理解しているか、様子を見ながら話すようにしています。当社の白鶴酒造資料館には、近年、中国にかわり、ベトナムからの旅行者が一番多く訪問されます。ベトナムの日本紹介のウェブサイトで大きく紹介されているそうです。日本酒の東南アジア市場への進出はまだまだですので、研修を通じて、研修員の皆さんにも、日本酒について理解いただき、日本酒ファンが増えることを願っています。また海外の方とビジネスをする上でのパイプ作りにも役立つと考えています。

白鶴酒造株式会社　総務人事部　広報室長　西田　正裕 氏、戦略開発本部　次長　森　伸夫 氏（神戸市東灘区、日本酒の製造・販売等）



訪問企業の声④小金屋食品株式会社

納豆で国際交流！日本の発酵食品の食文化を伝える。

納豆の糸のように私たちと、私たちに関わる全ての人々との絆を紡ぎ、日本の伝統的な健康食品「納豆」を世界中に広めていくことが、わが社のミッションです。日本の発酵食品という伝統文化を各国の方に知ってもらいたいと考えています。研修員の皆さんはキルギスからはるばる日本に来られただけあって大変真剣でした。「売り上げをのばし、会社を大きくしないのか」と質問を受け、「会社を拡大することが目的ではなく、利益を出すこと、本当にいいものを作ることを目指している」と伝えました。皆さん納豆を美味しいと言って試食していました。研修後に、はちみつを作っている研修員が「会社のあり方について重要なことを学んだ、納豆をはちみつに置き換えて、いいものをつくりたい」と言っていたと聞き、嬉しく思いました。会社は、理念をつくり、本当にいいものを追求し、信用を高めていくことで存続します。これからも、ほしくなってもらえる納豆を作り続け、海外からの研修員の方も受け入れたいと思います。

小金屋食品株式会社　代表取締役　吉田　恵美子 氏（大阪府大東市：納豆製造、卸、小売）

NEWS &TOPICS

事務局からのお知らせ

今年もあと2か月。PREXでは、エジプト、ガーナ、アンゴラ、チュニジア、パレスチナ、カザフスタン、アセアン・・・と各国の行政官や経営者の方が研修に参加されます。今月号は、フォローアップ事業で取材した帰国研修員の今と、訪問企業の声をご紹介しました。ウズベキスタンとキルギスの出張時の写真は公式フェイスブックページでも、ご紹介しています！

キルギスの帰国研修員、再来日！

キルギスのアジス・アバキロフさんは、大阪青年会議所主催のTOYPプログラム*に参加するため8月末に来日しました。
アジスさんはユニーク・テクノロジーズというIT企業を創業するとともに、キルギスのIT産業の発展のためにIT協会やハイテクパークの設立、さらにITアカデミーも創設し若者へのIT教育にも取り組む企業家です。
「TOYPプログラムへの参加は、日本の企業や日本について改めて深く知る機会になりました。日本に長寿企業が多いことは不思議でしたが、その秘訣は『ご縁を大切にしている』ということだと教わりました」

*TOYP：The Outstanding Young Personsの略称

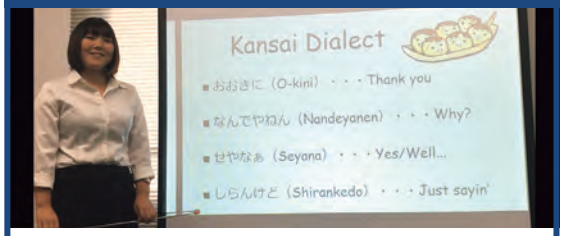
研修訪問にご協力ください！

海外からの研修員への講義や、見学受け入れ・交流等にご協力いただける企業を募集しています。お問合わせはPREX明路、亀田までお願いします。

キルギス大統領の娘さんへのプレゼント。

9月に実施した「JICAキルギス企業経営者上級研修」では、授乳服の製作・販売を行う有限会社モーハウスを訪問。キルギス大統領の娘さんが授乳中と知り、モーハウスから授乳服をプレゼントされました。研修員が届けてくれる予定です。

インターンシップ生、大活躍！



9月6日から10日間、京都橘大学、阪南大学、大阪経済大学、大阪国際大学の学生の皆さんがPREXでインターンシップを体験されました。インターンシップの期間中に、研修員のために、関西弁とお土産になる「飴ちゃん」の紹介映像を作ってくれました。ホームページからご覧いただけます。

スパシーバ　Спасибо！ありがとうございます！

ウズベキスタン、キルギスでは、帰国研修員の皆さんから、日本でお世話になった皆様にむけて、感謝の言葉を数多くいただきました！

ウズベキスタン サマルカンドへ

出張中にサマルカンドを訪問しました！歴史ある青の都は想像以上に美しかったです。（高口、藤田）

PREX NOW第245号（2017年11月発行）
編集・発行：公益財団法人　太平洋人材交流センター
専務理事・事務局長　岡本　譲
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階　TEL. 06-6779-2850
ホームページ：http://www.prex-hrd.or.jp
E-mail：prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作：ユナイテッド・トゥモロー